

「社会マネジメント・システム学」における教育拠点形成

従来より実施している社会人教育の継続・強化、工学技術者に対する社会科学の教育・研究指導、社会科学を学んだ人材に対する工学の教育・研究指導の強化、研究成果の大学および大学院の教育内容への取り込みを推進する。

社会マネジメント・システム学の教育における特徴は実践主義である。社会における実際の課題やシステムが研究対象であることから、積極的に学生を学外での研究活動に参画させ、社会貢献と研究活動を実施しつつ、社会システムに関わる分析能力等を身に着けることが出来る教育（言わば、研究、教育、社会貢献の三位一体の活動）を実施している。

さらに、教育において理想とする人材を社会科学および工学をともに理解し、融合させ、実際の社会の経営システム構築に活用できる能力を有する技術者と考える。従って、工学を学んだ経験のある学生には社会科学を、社会科学を学んだ経験を有する学生には工学を教育することで、この様なハイブリッドな人材を育成することを理想とする。

これまで、様々な修士・博士コースを設置してきたが、研究成果を生かしたより高度な教育へと進化させることが重要である。

これまでの社会マネジメント・システムに関わる教育展開

1. 社会人を対象とした大学院起業家コース

（博士前期・後期課程、平成11年度より）

高知 ⇔ 東京・大阪間のTV方式による休日双方向講義により、社会人が働きながら修士号を取得できるシステム

2. 外国在住者も対象とした英語による国際コンサルティングエンジニアリングコース

（博士後期課程、平成15年度より）

国内外の博士課程の学生を対象に、集中講義と研究を効率的に実施

3. 社会資本の建設・経営に携わる行政・会社経営者、幹部等を対象としたトップマネジメント、リスクマネジメント、行政経営コース

（博士前期課程、平成16年度より）

社会資本に関わる将来のリーダー養成を目指して、産学官のトップ経験者などを講師に招いた講義を実施するとともに、建設マネジメントや行政経営なども教育する。

今後の高知工科大学の研究教育支援メニュー

1. 「場」の提供ー新たな研究拠点

平成16年3月に新研究棟（6,200平方メートル）完成
研究期間を限って優秀な研究プロジェクトが利用出来るシステム

2. 「人」の提供ー教員の増員（100名 → 150名（現在132名））

優秀な研究者の研究時間増加を目指し、教育に専念する教員を採用するとともに、研究に専念する教員・研究スタッフの速やかな採用システムがる。

3. 「資」の提供ー研究教育費（12億円 → 20億円（現在16億円））

学長、学科長は独自の判断で研究費を優良プロジェクトに投下できる

4. 博士後期課程学生の増加（70名 → 180名（125名））

優秀な研究プロジェクトへ外国人学生（10カ国）、社会人学生を配置している。（授業料免除と年間120万円のRA：リサーチアシスタント 60名へ）